



## 慶應義塾大学ビジネス・スクール

# ミーティング

5

渡辺勉は国立大学で経済学を専攻したのち、22歳で米国NYに本社がある投資銀行A社に入社した。当時、外資系金融機関は、彼の大学では新卒の就職先としてまだ一般的ではなかった。が、3年生の春休みにインターン募集のポスターを学校で見つけた彼は、破格のバイト料に惹かれて応募した。ディベートによる選考を経て約1通間のインターンを経験したのち、続いて米国人マネージャーも交えた2回の面接を経て入社が内定した。

10

## 入社10日目、マーケットコメント

15

最初の配属は、マーケット部門のデリバティブトレーディングチームだった。上司のトレーダーに毎日のように怒鳴りつけられながら働く日々がいきなり始まった。10日ほどたった日の朝、上司から「渡辺、今日からお前が俺の代わりにモーニングミーティングでマーケットコメントしろ」と突然命じられた。

毎朝8時からマーケット部門全体のメンバーが大きなミーティングルームに集まり、モーニングミーティングが始まる。前方には5～8席ほどのスピーカー用の椅子が置かれ、そこに毎朝エコノミスト及び各部を代表したトレーダーが座り、それぞれが担当するマーケットについての前日の動き、海外で起こったこと、そして今日以降の見通しについて発言するのだ。

20

それを聞くのは、他のトレーダーやセールス部隊などである。総勢30～40名くらいだろうか。

25

いわずもがな、渡辺はこの会社で働き始めたばかりで、マーケットどころか、目の前の業務についてまだ右も左も分かっていない。毎日自分の周囲で何が起こっていて、それがなぜで、これからどうなる

本ケースは慶應義塾大学ビジネススクールの大藪 毅とMBA卒業生が取材をもとに作成したものである。社名や人名およびその発言・行動については特定を妨ぐため変更している部分がある。なお、その内容に関して組織や個人のあり方や行動については是非を問うものではない。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 大藪 毅 (2022年4月作成)